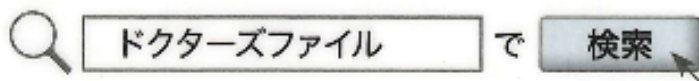


医療情報サイト「ドクターズ・ファイル」に当院が掲載されました！

当院の基本情報だけではなく、内海院長の取材内容も掲載されております。
パソコン、スマートフォンでも検索可能ですので、ぜひご覧ください！



スマートフォン版はこちら

ドクターズ・ファイル
スマートフォン版



「イマチカ検索」で
今から診てもらえる
近くの医院・病院をボタン1つで検索！

Doctor's File
ドクターズ・ファイル



総合新川橋病院 内海 通院長

川崎駅から徒歩10分。第一京浜（国道15号）と県道101号線という2本の広い道路が交わる角地にある「総合新川橋病院」（208床）。交通量も多く、夜はライトアップされた外観が目白押し。8階建の本館とそれと連続している6階建の別館に分かれている。本館の2フロアは広々としたホテルのロビーさながらで、8階には本格フレンチが味わえるレストランもある。院長の内海通（うちみとおる）先生は創業者から数えて三代目。院長室には、所懐しと医学書などが置かれる中、先代院長（現院長の父）の専典と初代院長（別院長の祖父）の別館が飾られていた。「病歴の主幹は患者様」と語る内海先生。穏やかな笑顔が印象的な先生の言葉には、人間的な温かみを感じる。地域の中核病院として、確固たる信頼と伝統を持つ病院。医療と介護・福祉との連携など、新しい時代を先駆けた医療機関としての展望を十分に語ってもらった。
(取材日 2015年7月17日)

―― 院長の概要をぜひ歴史について教えてください。

当院は一般内科をはじめ循環器科、消化器科、泌尿科や産婦人科、小児科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科といった幅広い診療科目を擁している総合病院です。このほか皮膚科や放射線科、麻酔科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科、産科、腫瘍管理センターや心臓血管センターも併設し、地域に根ざした中核病院として、頭脳を日々行っています。病院の歴史は古く、1930年に祖父が創設したのが始まりで、1964年に総合三病院および特定医療法人の承認を受けたことを機に、名称を特定医療法人財団明徳総合新川橋病院と改め、現在に至っております。この切りは浜工業地帯で人口の増加が激しかったのですが、医療機関は少ないという実情がありましたので、地域の皆さまから切実に求められて創業となりました。

―― 内海通先生が開業を継承されるまでの経緯を教えてください。

私は1979年に東京医科大学を卒業し、医師免許を取得しています。1982年から東京医科大学医学部で臨床研修医として勤務を始め、医師への第一歩を踏み出しました。立川総合病院中央病棟に移りましたが、立川総合病院副院長、市立根室病院副院長、海外留学を経て、東京医科大学副院長、海外留学を経て、さまざまな経歴を積み重ねてきました。

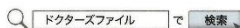
―― 創業者である祖父が父から譲り受けたものは？

中学生の時祖父が亡くなり、それから父が後を継いで院長を務めていました。患者さんにはやさしい病院であって、父曰く「父は父にやさしい病院だ」とその理念は祖父から受け継いだそうです。患者さんは優しい言葉で接して、どなたも親切にして、親切に過さず、大切な人として、先代の理念を大事に引き継いでいます。親切に過さず、大切な人として、先代の理念を大事に引き継いでいます。親切に過さず、大切な人として、先代の理念を大事に引き継いでいます。

―― 病歴の特徴を教えてください。

先ほど申し上げた通り当院は元々眼科を専攻してまいりましたが、現在は年間約3,000件の眼科手術を行っています。白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、斜視、近視、小児眼科などあらゆる眼科疾患に対応することが可能です。今では全国から多くの患者さんが訪れてくださっています。また、近年は眼科以外の診療科目の強化にも力を入れており、脳神経外科での脳動脈瘤手術、循環器科での心臓カテーテル治療、整形外科での脊椎手術、形成外科での乳房保存手術、形成外科では眼瞼下垂、眼瞼下垂手術、皮膚科では皮膚腫瘍摘出手術など、病種全体でさまざまな疾患に対応可能な体制となっています。

DATA 総合新川橋病院
〒210-0013 神奈川県川崎市川崎区新川通1-15
TEL: 044-222-2111
京急川崎駅 川崎駅



*裏面へ続きます

